

東京2020大会を見据えて

第8回 「空飛ぶ主婦」

— フランシナ・ブランカース=クン

田中 ひかる



アムステルダム競技場でハードルを跳ぶクン
(先頭、1948年)



アムステルダムの自宅で家族と(1949年)

フランシナ・ブランカース=クンは、今から百年前、オランダのユトレヒト州に生まれた。陸上競技の選手として、オランダ選手権や欧州選手権などで何度も優勝をおさめ、複数の種目で世界記録を更新した。オリンピックでは、一大会で四つの金メダルを獲得するという快挙を成し遂げている。

比類のない功績を残した彼女はしかし、「アスリート」としてよりも、「女性」あるいは「母親」として注目され続けた。

一九三六年に一八歳でオリ

ピックベルリン大会に出場し、走り高跳びで六位に入賞したクンは、次のヘルシンキ大会でのメダル獲得を期待された。しかし、第二次世界大戦が勃発しオリンピックは中止に。その間もクンは、アスリートとして国内外で活躍する一方、結婚して二人の子どもをもうけた。

最初の出産の際、メディアは、「クンの選手生命は終わった」と報じた。女性がスポーツをすること自体を否定的にとらえる人が多かった当時、「母親」がスポーツを続けるということは、

「非常識」であった。しかし、クンはアスリートであり続けた。

大戦後初の開催となった一九四八年のロンドン大会の内選考で、クンは百メートル走、八〇メートルハードル走、二百メートル走、四百メートルリレーの四種目で代表の座を獲得した。これについて大会役員のイギリス人男性は、「二人の子をもつ三〇歳の母親が、家族を放置してショートパンツで走ることに、いったいどれほどの意味があるのだろうか」と語った。

結局クンは、四種目すべてで金メダルを獲得。その後も世界を舞台に活躍した。飛行機で飛びまわる姿に、「空飛ぶ主婦」というあだ名も冠された。

現在の日本でも、子どもがいる女性アスリートは少数派であるため、その点に注目されがちだが、さすがに「子どもを放置している」とは見なされない。しかし、アスリートとして存在している彼女たちをわざわざ「ママさんランナー」などと呼ぶことに、「いったいどれほどの意味があるのだろうか」。